



世說新語

五

9
3558
5



15
472
3558
5



児談卷之八

用達

金の火を得くかたらてかり各その職あり。木の
斧を巧く其用公達と。萬物なる志あり相生
相剋し。每人乃ち其くやるは天の自然なり。
人の万物の靈なる能くはとこころあふ人あす
る。その人の心とていふとていふとていふとてい
ふ。其人れも立くもれは上とていふもあふ人




母智ある母その得る法とてつる小用したるが如く
 不肖ふしやうみをとりにてはさか。世々賢者ありしごと
 其ま方にあつらふるあり用のみよりの人ともさるるなり
 人世もあつらひしごと。其の法業とては海になま鏡
 ありは莊さう子あり。大海より地ありつよ精牙の
 うら川みその地者。故に西三人をのこるふすま
 び。人志の法とて公志ありしごと。其能とていふと
 りらふす。人乃我よりまらりて法とてむ事也

是れ我も才智なけしに能ある人なりとよびて
 悪むなり。人の愚なりやいそむ母賢母とて智
 あり人あははとんと思ふ情乃あるありとされ
 ん。ばきくあむらひるる能あなむらひり。それ傳
 母曰く美女の愚女乃あこといそりかくあると云
 るは人忠欲下りてと後若かりと人むらうあむ
 とらり形り。是よりそのみ似るる公求むるなり
 破り賢い不肖者乃師あり。倭わい武ぶの人と賢

養分母として害君小用いらは時分はつらりと勢
 とぬりあがり。あはせすうーしうたううて少き器
 又争るごい必^{おせ}争^{あせ}かりしく人をつらつら。その貴人
 かり多利をえんと那り。よ身そのあー貴小
 敵ー五ーまのそ小敵ーつよく其まごを^{あつ}強^{あつ}
 湯武の禁^{けい}討^{たう}ふたのどーがごー。故^こあつそん^{そん}
 争^{あつ}つらつごかりすー小あつあつたり。治^ちるるる
 中^{ちゆう}いあつそのるれあつあつばふら。其^{その}能^{のう}あつといえ

どもはゆふ物とるまごこれー。是^{この}分^{ぶん}時^じ分^{ぶん}はつと
 つ孔子乃^{このうし}玉^{ぎよく}聖^{せい}とつご母^{はは}つごごらふあつ天下
 の治^ちむら^{むら}其^{その}能^{のう}を^を位^ゐを^をあつごらふてよくその物
 とつごらつ。あつ者^{もの}多^{おほ}くつご貴^{たか}乃^のとつごあつらり。
 故^{ゆゑ}り^{ゆゑ}賤^{せん}との居^ゐとるつよく君^{きみ}れ^れ勢^{せい}分^{ぶん}がごむ
 うと天下^{てんか}忠^{ちゆう}人^{にん}すごーく思^{おも}るるりのまあれど
 争^{あつ}ごあつく君^{きみ}乃^の恩^{おん}ふかんー君^{きみ}れ^れ不^ふ理^りも是^{こゝ}
 也^{こゝ}あつて服^{ふく}ー治^ちるるる。天下^{てんか}れ^れ人^{にん}智^ちも^もあつと

此のまゝと死に人乃ら居らるゝものありや。此の身を
を去りては、思ふに悔ひなき人乃ら能はるや。世
と成り。故に愛子も  命をえらばぬの
體に肥さるとやいふなり。君主その居の賢不肖
智愚をえらばるゝ。其能をえらば
ては、その用らるゝ乃ら用らるゝ。一偏ふ
えらばるゝをば、さきとさば、百万の諸侯も居あ
り。文王の時、一人湯の海あり



伊尹一人天下の事か、其人を得らるゝか、さ
かき、死に敬らるゝなり。其人も死に存七とあり
や。とある。さきとむら、死に存七とあり、
いれ、武帝今の世ありて、いせけるを死となく
は、さきとありきん。累にれ、同ふ、異子乃ら善て
いせらるゝ。より死に存七とあり。丁公、右公、齊の國あり
なり。善は、善とさき、植に、裏に、世の君らるゝ人、皆
いせらるゝ。より死に存七とあり。昔より死に存七と



漢武もつゞ祭封が世のくろくそとのつあくと者
 あり。此國の武烈今も生あつた民安とらるる
 けんや。或人思ふ死し一命よき事ありや。向く
 ぞ。此の向くむく中華めく此向あり。其言ふ
 居一才毎のその善し死してよ。死事のかと
 又つらうその善し。若より死し。若らその善しと
 らくかえし。その一人と。か。つ。く。大。美。あり。
 あり。是と。そ。く。え。被。む。物。系。世。界。の。と。あり。て。地。

物いなきう又向ふ弘法大師乃入定におく死と
 何のゆゑぞや。思れ。向く。あ。中。華。道。と。む。め
 一達磨入り。る。死。く。入。定。す。達。才。ち。老。子。乃
 い。ゆ。切。成。名。と。け。く。身。あ。り。そ。く。に。符。高。あり。ま
 空とる。乃。ふ。かり。り。あり。とい。つ。も。あ。り。と。ま。ら。ん。老。子
 小ひ。と。故。り。世。二。倍。へ。世。く。其。名。あ。ら。う。と。く。も
 空海へ行とま。と。て。俗。と。む。ら。う。と。の。あり。て
 達磨子れと。ま。ら。ん。とい。え。と。入。定。乃。く。と。い。う。海

是より水はと。お小坂の世忠、傍々、空海をか
 りいて、突入り入定し、死にけり。その體をこのお小
 とく、其書、さうらるといふと、むとく、いとほ、那
 き、さえの僧と云なり。若達才、乃入定、さう、天竺
 乃、の、より、中、必、り、出。梁、お、用、い、ら、れ、て、三、年、の
 乃、ふ、二、千、ヶ、年、外、建、立、し、て、佛、道、あ、り、い、り、繁
 昌、し、ま、れ、を、必、達、磨、と、か、い、と、終、る、の、あ、ら、む、や
 ち、い、あ、り、そ、く、の、何、の、り、と、帝、お、さ、う、り、て、入、定、し、け

せむ、帝、お、け、む、い、つ、て、毎、家、と、故、お、入、定、の、よ、し、と、達、才
 乃、故、つ、ふ、ち、ら、ん、と、く、使、者、は、ら、り、ら、り、と、使、者、を、の
 ぶ、と、の、會、く、か、え、ら、る、と、れ、を、達、磨、お、を、り、ま、傍、お、達
 ち、い、と、不、審、お、思、い、り、達、才、は、あ、ら、ん、を、ま、た
 へ、入、定、お、あ、り、た、ら、ぬ、ゆ、ぎ、や、同、く、さ、い、た、の、後、と、い
 一、つ、ら、い、あ、げ、え、と、く、の、さ、い、ん、と、さ、り、け、り、使、を、又
 同、く、さ、い、は、い、か、さ、し、入、定、乃、棺、お、あ、り、し、り、と、さ、き、
 乃、達、磨、お、り、て、帝、に、奏、し、たり。帝、ち、あ、ら、り、て、使

也。さもあふんきあや。むう。彭祖ちやうその八百歳の壽いづひな
 れど。弘法こうぼうの今いまに生なまあふんと千年ふととくしと人
 なるのこ。あきともつあゆまして上智じやうちふあれた
 けあふりつれ術じゆつもいあふりて術じゆつあふんう。或人あるひと乃
 曰いくるともあふんや曰い乃のいりてたん緩ゆる便べんあて深井
 の泉いづみに汲くみつうととつえんり。あふん人ひとのかくのが
 此行このゆきいあふとも人信ひとのまことと法はふとありてかりたれ人
 中なかいふ乃のも。あふ人乃ひとの曰いく何なにとれ書かきあふく見みゆり

や曰い乃の曰いく空海くうかいの役行者やくぎやう者もの師しとたふとて法はふを
 立たあふが神かみとも役やく乃の行ゆき者ものの四よつ梵ぼん字じあふつま
 ありけのこ。是こゝふをささるいこ。真言宗まごんしゆ祈禱いのり乃
 れよ書かきとら文字もじもたけり。若わく神かみと母ははまふと字なふ
 秘ひ要やうとく大切たいせつれ行ゆき禱たうのたれ書かきとら梵ぼん字じつま
 ありけのこ。あは役やくり者ものの梵ぼん字じなり。うま海うま役やくり
 者もの秘ひ要やういあふんと母ははかくれこ。汲くみり者ものれ行ゆきや
 徳とくとあ書かきしと空海くうかいあふえあふと行ゆき者もの乃の師し

見 卷八

目のものねえおつり。じ書ふは法の事とよく
 かきほつねたり。その書つておびくめくたつて人
 もなり。世うちお空海入定しあふ乃後れありらぬ
 う交つらうとらふ。つとたうとれ文るれを虚説を記
 しあふあし何んは。神代乃養ふ神書よしあ
 の形勢と書しうふをう。海に回入後行者の
 ちの玉乃道路とあしわも結あては。あふあふ
 あくゆりや児多い多回く。もう一書ふ後行者

の踏るあ道ゆく行者は前ふる後たりし
 うば。其の乃人のおお美ありて飛りたり。まご書
 小あく通しういあう。後行者の物とまけあを
 つの軌りしあく法道とありき。近く并ある
 ちらと人なりあめしあふと。あふあふあふとあふ
 なるあふと。東都小あふとあふいて洛陽
 ちらと人なりあめしあふと。あふあふあふとあふ
 なるあふと。あふあふあふとあふいて洛陽
 ちらと人なりあめしあふと。あふあふあふとあふ
 なるあふと。あふあふあふとあふいて洛陽

子不^レ知^レ。後^レ乃^レ考^レと^レか^レ分^レく^レれ^レご^レ。せ^レう^レし^レう^レと^レ
 あ^レゆ^レゆ^レり^レ佛^レら^レゆ^レま^レ。佛^レ像^レと^レ春^レ日^レ大^レ明^レ祚^レの^レ作^レ
 也^レつ^レあ^レご^レご^レ。梵^レ字^レと^レ人^レ者^レ矣^レ十^レ三^レ年^レに^レ流^レり^レる。
 是^レま^レる^レ日^レ祚^レの^レと^レれ^レ梵^レま^レと^レう^レな^レし。海^レに^レて^レ佛^レ像^レ
 乃^レあ^レん^レや。是^レ春^レ日^レ姓^レの^レ仏^レ師^レあり^レを^レり^レ從^レり^レと^レ
 大明^レ祚^レの^レ他^レと^レい^レふ。ま^レた^レ此^レ教^レ多^レし。又^レ其^レた^レう^レま^レき
 名^レ分^レつ^レつ^レり^レて^レ我^レ作^レも^レ人^レと^レ信^レあ^レん^レや^レあ^レと^レ人^レ
 を^レ佛^レら^レ奉^レ多^レし。乞^レ家^レと^レ人^レ小^レ異^レる^レん^レと^レ欲^レと^レる

う^レら^レふ^レ利^レふ^レし^レは^レる^レあり^レば^レか^レし。あ^レま^レ兜^レい^レふ^レ
 同^レじ^レと^レ佛^レと^レら^レ佛^レと^レら^レに^レけ^レり^レま^レい^レん^レ乃^レ情^レなり^レ。其^レけ^レり^レ
 き^レ情^レ分^レある^レ分^レつ^レらん^レや^レと^レれ^レの^レ學^レ問^レの^レ切^レ分^レの^レつ^レら^レむ
 大^レなり^レ。故^レも^レ佛^レと^レ異^レある^レご^レご^レて^レ道^レ分^レ佛^レと^レら^レを^レ君^レ
 子^レなり^レ。故^レり^レ老子^レも^レい^レえ^レり^レ和^レ光^レ同^レ塵^レと^レい^レて^レ天^レ地^レ
 一^レ法^レの^レ重^レ人^レと^レい^レふ。そ^レと^レ易^レ經^レの^レ陰^レ陽^レ消^レ長^レと^レい^レふ
 老子^レの^レ人^レ事^レ消^レ長^レを^レい^レふ^レなり^レ。ご^レご^レく^レ流^レ人^レ小^レ等^レと^レ
 也^レと^レい^レふ^レ。自^レ然^レり^レ秀^レる^レさ^レえ^レら^レふ^レを^レ豪^レ傑^レと^レ



下もよき留る種も印づくも深かり。その下皆同
 しくすふ所也。何程と云ふ事。身險阻と云ふ事
 もさびしくあられ。なほほど艱危やいふと毎と
 づるべし故より大川を渡はふ利ありといふ利。君
 子貞と云ふかよ野ふといてこと言ふをた。睡比
 乃私よりあつざらぬ子乃。まふまことあつざら
 しく君子の正途と云ふこと想一とやうに。君子貞
 と云ふ事なりて。おほやあつざらぬ子印。きぢるは

つらう。故より千里乃をまねお居り。海の子歳の
 のちにやうといふと。母符符とて命とあつざら
 なく。一をりあつざらぬ事。四海の廣き北民の
 衆といふと。とも印。かろすとつらうなり。小人の唯
 松の意と用いて。あつざらぬ事。つらうものいひなり。
 かつらも。是れ印づく。一あつざらぬ事。つらうもの
 なりといふと。母。つら母。あつざらぬ事。小人の印。つ
 らと。つらうものいひなり。あつざらぬ事。一其を

とほまじき物の自然を志り。情亦よく通して心
し。其道亦かるふ。こと一に天下に通じ。万世の上
に。稱^{しやう}ざるの人なるも。亦人^{ひと}情を志る人の本^{もと}人
み^みを^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。
乃^のも。情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。
右^{みぎ}上^{かみ}乃^の徳^{とく}ありとともなり。三^{さん}軍^{ぐん}れ^る道^{みち}も情^{じやう}を
志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。
づ^づく^くも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。

情^{じやう}亦^もよく通^{とほ}して心^{こころ}し。其道^{そのみち}亦^もかる^{かる}ふ。こと一^{ひと}に天下^{てんか}に通^{とほ}じ。万世^{ばんせい}の上^{のうへ}
に。稱^{しやう}ざるの人^{ひと}なるも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。
乃^のも。情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。
右^{みぎ}上^{かみ}乃^の徳^{とく}ありとともなり。三^{さん}軍^{ぐん}れ^る道^{みち}も情^{じやう}を
志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。
づ^づく^くも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。亦^も人^{ひと}情^{じやう}を^を志^しる^るも。

兎談卷之八終

延享五戊辰正月朔旦

堀川通佛光寺下町

京師

河南四郎右衛門

開

書林

大阪

心齋橋筋安堂寺町

大野木市兵衛

版

江戸

日本橋南一町目

須原屋茂兵衛

刊吹譚跋

曾連初有出月更曰捺捕

猴糝木授水界不_レ以_レ新_レ系_レ龜

展險_レ系_レ危_レ分_レ難_レ讀_レ不_レ如_レ孤

擢_レ市_レ沫_レ未_レ雀_レ四_レ三_レ今_レ今_レ熱_レ一_レ尾

身は信難く事人不能矣城者
一善不可知人作及名曰吹
被先生難言其册好不補
竊賊之中不保當云其好於
人情不可知由于此也

且備不朽如難免人天
熒察レ不保止レ許レ後レ也
弱名作知於人情而已哉性
之理道也レ和目也於此至
國家之代民成信レ也上

胡以補云

皆延享于丙寅之春二月

有為少疎於跋



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

